利用者氏名：	評価者(職種)：　　（　　）	評価日：　　年　　月　　日

高次脳機能障害　生活自立のためのアセスメントシート

高次脳機能障害は、「見えない障害」と言われ、一見問題がなさそうに見えます。しかし、金銭管理や調理、契約/手続き等社会活動の自立はわずか1～2割との報告もあり、実は多くの支援を必要としています。
そこで、見えない障害を「見える化」し、適切な生活の自立につなげるためのアセスメントシートを作成しました。

【使用目的】

高次脳機能障害のある方の生活自立に向けて

①見えない障害を見える化する

高次脳機能障害は「見えない障害」と言われ、一見問題はなさそうにみえます
現状を正しく把握し、「何ができて」「何ができないのか」を明確にしましょう

②見える化された課題について、自立に向けた適切な代償手段の導入や環境調整を行う

課題となっていることについて、「次の段階へステップアップ」するための方法を考えましょう

【使用方法】

支援者が、ご本人の生活実態を確認しながら使用する

1　該当欄に チェック☑ を つける

- ○ 判断の基準（次ページ）にそってご本人の生活を思い浮かべ、チェックをつけましょう
- ○ チェックがつけづらい場合は、チェック欄は空欄のままで構いません。2.詳細記入欄の記入にうつってください
- ○ その時々で判断が異なる場合（同じ項目でも、できる時とできない時がある）は、低い評価でチェックをつけ、詳細記入欄に記載しましょう
- ○ 小項目の空欄は、評価したい内容を自由に追加してご活用ください

2　詳細記入欄に 記入をする

- ○ 記載例を参考に、具体的な様子を記入しておきましょう
- ○ 例）一部介助：「薬を飲みましょう」と声をかけると自分で準備できる。服薬することは覚えているが、飲んだかどうか忘れる

3　まとめと共有　を記入する

～ 代償手段・環境調整を考え 試行する ～

- ○ 現状と課題、今後の支援介入、見通し等を記入しましょう
- ○ 取り扱いたい項目（課題）について、チェックのついた段階の1つ上を目指すイメージで考えましょう
- ○ 例）一部介助から環境調整による自立を目指す場合
  - ➡ お薬カレンダーを導入。本人がセットし、服薬後に空袋を入れることができる

・入院中は評価しにくい項目もありますが、退院後の生活を想定したアセスメントにご活用ください
・ご本人のニーズや課題に合わせて、評価項目を選択した使用も可能です
・適宜再評価して、代償手段や環境調整が有効か、変化を確認するツールとして使用できます

本シートを引用、転載、または改変を行う際は、出典を明記してください

【判断の基準】

例）服薬管理　②適切に服用できる（タイミング・量等）

自立		**周囲のサポートなく自力でできる。困った時は援助依頼をして解決できる（支援不要）**
環境調整による自立		**周囲が本人に適した環境を整え、本人がそれを活用しながらできている（確認は不要）** 例 お薬カレンダー・服薬アラームのセットという環境調整で自分で服薬できる 飲み忘れもなく周囲の確認は不要
一部介助	確認	**周囲が本人に適した環境を整え、本人が活用しながらできているが、確認が必要** 例 環境調整でほぼできているが、時々飲み忘れがある お薬カレンダーに間違いなくセットすることができているか確認が必要
	声かけ（間接指示）	**周囲がヒントを伝える声かけがあればできている** 例 「食後何するんでしたっけ」等ヒントとなる声かけがあれば、服薬できる
	声かけ（直接指示）	**周囲が直接行動を促す声かけがあればできる** 例 ヒントとなる声かけだけでは思い出せず、「食後に薬を飲みましょう」と声かけがあれば、自分で準備して服薬できる
	直接介助	**行動そのものを介助する** 例 周囲が食卓に薬を用意し、服薬したか確認が必要
全介助		**周囲のサポートがあってもその行動を自分ではできない** 例 服薬するまで見届ける必要がある

【記載例】

	自立	環境調整による自立	一部介助				全介助	未評価 非該当	詳細を記入
			確認	声かけ 間接指示	声かけ 直接指示	直接介助			
<服薬管理>									
①飲む薬を用意できる（その回に飲む量と種類を正しく用意できる）			✓						自分で用意ができるが、時々（月に2～3回）薬の量や種類に間違いがある
②適切に服用できる（タイミング・量等）					✓				「食後に薬を飲みましょう」といえばご自分で準備して飲める。飲んだことを忘れることあり。
③自分の飲んでいる薬の内容を説明できる（お薬手帳を参照し説明できる）				✓					何か分かるものありますか?と聞くと、毎回「あ、お薬手帳か!」と言って最新のページを開いて読み上げることができる

大項目 <中項目> 小項目	自立	環境調整による自立	一部介助				全介助	未評価非該当	詳細記入欄
			確認	声かけ間接指示	声かけ直接指示	直接介助			
ADL・IADL （動作として可能かを評価）									
食事（自分で食べることができる）									
更衣（自分で着替えができる）									
入浴（自分で洗体・洗髪・着替えができる）									
整容（洗顔・歯磨き・整髪ができる）									
排泄（ズボンや下着の上げ下ろし・清拭ができる）									
移動（歩行や車いす等で目的の場所に移動することができる）									
掃除(掃く・掃除機をかける・拭く等の動作ができる）									
洗濯（洗濯機の操作・干す・取り込む等の動作ができる）									
生活リズム									
①生活リズムを保つことができる（昼夜逆転していない等）									
②適した起床時刻を決めることができる									
③起床時刻を意識して寝ることができる									
④寝坊しないための工夫ができる（アラームをセットする等）									
⑤予定の時間に起きることができる									
家事									
<洗濯>									
①洗濯物を決められた場所にまとめることができる（脱ぎっぱなしにしない）									
②いつ洗濯するか適切に決めることができる（洗濯する頻度や洗濯する時間帯等）									
③適切に洗濯機のセッティングができる（操作・洗剤の量等）									
④洗濯物を適切なタイミングで取り込むことができる									
<掃除・片付け>									
①物を元の場所に戻すことができる									
②洗面台やトイレ・お風呂掃除が適切なタイミングでできる									

大項目 <中項目> 小項目	自立	環境調整による自立	一部介助				全介助	未評価非該当	詳細記入欄
			確認	声かけ間接指示	声かけ直接指示	直接介助			
③ゴミをためずに捨てることができる									
④ゴミの分別や収集日に合わせてゴミ捨てができる									
<食事>									
①栄養バランスの良い献立を考えることができる									
②栄養バランス・量を考えて、出来合いのものを活用できる									
③食事時間に間に合うように調理（食事の準備）が完了できる									
④簡単な料理を作ることができる（火や包丁の扱い等含）									
⑤片付けがタイミングよくできる（洗う・しまう・テーブルを拭く等）									
<買い物>									
①買う物をメモすることができる（メモ帳・スマホメモ機能等を活用できる）									
②買う物を忘れず購入できる（メモ等参照できる）									
③買う物を探す・選ぶことができる									
④支払いが適切にできる（セルフレジの使用・店員とのやり取り等含）									
⑤必要な物を適量購入できる（同じ物・不要な物を買わない）									
外出									
①目的地を決めることができる									
②目的地までの行き方を調べることができる									
③外出に必要な持ち物を用意して、忘れずに持参できる									
④到着時刻に間に合うように出発できる									
⑤到着時刻に間に合わない場合、会社や通所先等に連絡できる									
⑥目的地まで安全に行くことができる（横断歩道・階段の利用等）									
⑦遅延等交通機関のトラブルに適切に対応できる									
⑧道に迷ったことに気づき、適切に対応できる									
⑨適切な時間に帰宅できる									

大項目 <中項目> 小項目	自立	環境調整による自立	一部介助				全介助	未評価非該当	詳細記入欄
			確認	声かけ間接指示	声かけ直接指示	直接介助			
⑩公共交通機関の利用ができる									
生活管理									
<身だしなみ>									
①洗顔・歯磨き・整髪が適切なタイミングでできる									
②化粧・髭剃り等が適切にできる									
③爪切りが適したタイミングでできる									
④気候に合わせた服を選択できる									
⑤清潔な服を着用できる									
<入浴（シャワー浴）>									
①適切な頻度で入浴できる									
②入浴時間に合わせて入浴の準備ができる（着替えの準備・お湯を入れる等）									
③洗髪・洗体が一人でできる（洗い残しや流し残しがない）									
④適切な時間の長さで入浴できる（長すぎる・短すぎることはない）									
<金銭管理>									
①通話や通信料金を意識して、携帯やスマホを使用できる									
②決まった額の小遣いを計画的にやりくりできる（趣味・交際費等）									
③生活費（家賃・食費・光熱費・被服費・医療費・交通費等）がやりくりできる									
④貯金が適切にできる									
⑤銀行口座の管理ができる（家賃や光熱費等、引き落とし日に合わせて入金できる）									
⑥ATM利用が適切にできる(回数・手数料等含)									
⑦高額な買い物の際、適切な判断ができる、または相談ができる									
⑧自分宛に届く請求書に対応できる（光熱費・税金・買い物等）									
⑨収入に見合った買い物ができる（ネットショッピング・課金等含）									

大項目 <中項目> 小項目	自立	環境調整による自立	一部介助				全介助	未評価非該当	詳細記入欄
			確認	声かけ間接指示	声かけ直接指示	直接介助			
<服薬管理>									
①飲む薬を用意できる（その回に飲む量と種類を正しく用意できる）									
②適切に服用できる（タイミング・量等）									
③自分の飲んでいる薬の内容を説明できる（お薬手帳を参照し説明できる）									
<体調管理・緊急対応・受診対応>									
①水分等を適宜摂取できる									
②体調が悪い時に人に伝えることができる									
③症状に合わせて医療機関を受診するか判断できる									
④医療機関に電話をする等して状態を伝え、相談できる									
⑤医療機関の予約ができる（ネット・電話等）									
⑥診察時、症状や困っていることを説明できる									
⑦診察内容を理解し、忘れない									
<予定管理>									
①予定の記入（入力）ができる（スマホ・手帳・カレンダー等）									
②予定を確認（参照）できる（スマホ・手帳・カレンダー等）									
③予定を実行できる									
<その他の管理・対応>									
①困った時に自分から相談できる									
②電話の対応ができる									
③勧誘に適切に対応できる（訪問・ダイレクトメール・インターネット広告・電話等）									
④契約の解約等に対処できる									
⑤外出時忘れずに施錠できる									
⑥電気・火の始末ができる									
⑦大切な物の管理ができる（財布・携帯・通帳・印鑑・書類等）									

大項目 <中項目> 小項目	自立	環境調整による自立	一部介助				全介助	未評価非該当	詳細記入欄
			確認	声かけ間接指示	声かけ直接指示	直接介助			
各種利用申請の手続き・契約									
①公的機関の手続きができる（障害者手帳・障害年金・マイナンバー・自立支援医療等の新規手続きや更新手続き等）									
②重要な書類(障害者手帳・年金手帳・障害年金証書・保険証・生命保険・受給者証等）の保管ができる									
追加の項目：									＊追加したい個別の項目にお使いください

フリー欄

まとめと共有

項目	現状 ①現在の段階、②現状の詳細	今後の支援介入 ①目指す段階、②具体的支援方法	試行期間	結果
例：服薬管理	①直接介助 ②記憶障害により服薬すること、したことを忘れる。周囲が薬を食事と一緒に置いておくと声かけ無しで自分で服薬できる。視界に入れば服薬可	①声かけ（直接指示→間接指示へ） ②自席へ「お薬カレンダーから薬を取って食後飲む。飲んだら空袋をカレンダーに入れる」と貼り紙をして行動できるか試す。直接指示「貼り紙を見ましょう」を試し、出来たら「どこをみるんでしたっけ」とヒントの声かけに変える。周囲の関りを統一する	1ヶ月	
例：外出	①未評価、②未評価	②外出訓練を計画する	1ヶ月後実施	